

<今朝の聖書から>

村上 定幸

【富】主イエスは、ここで富について真っ向から問題にされます。語る相手は弟子達ですから、明確に信仰をもっている者たちだったでしょう。もっといえば、富を追及する生活を後にして主に従った者達です。しかしここで彼らにもう一度、富について語られます。話は少し違いますが、私たちは主の祈りにおいて“日毎の糧を与えて下さい”と祈ります。主がそう祈りなさいとっておられるのです。この糧というのは、パンだけのことではないと解釈されます。生活を維持するための一切の能力だの健康だの、金銭に至るまですべてを糧とっているのだと解釈されます。さて富ですが、ここで富というのは、金銭だけのことではないのです。財産や健康や、技術や生い立ちから学歴に至るまで、家族や家庭といえるようなものすべてを示しているのがこの富という言葉の元々の意味です。最近私たちの教団の町田福音キリスト教会が新会堂を献堂しましたが、ここでも問題になるのは金額です。私たちの教会は今、この金銭がないことで苦難しています。いずれも問題は金銭です。教会の営みにはお金が必要です。病気の治療について、私は何時も“出来るだけの最善の治療”をお勧めすることにしていますが、ここに必要なもお金ということがあります。

【世捨て人】こんなお金の支配、経済学的には、富（価値）というものの持つ下部構造（そのうえで私たちは生活を営んでいるのですが）ともいえる、いかんともしがたい力を思い知って、隠とんの生活に入ろうという運動が、何回も繰り返されてきました。主イエスは、神と富に兼ね仕えることは出来ないと教えられます。これは金の世界を捨て去り、そこから自由になりなさいと教えておられるのではありません。

今朝の聖書では“不正（元々は不忠実と同じ言葉です）で友達を作りなさい（16：9）”と教えられます。

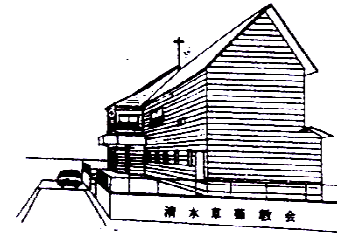
【拝金主義】初めは一生懸命に働いてお金や富を得ることに努めますが、ある程度、勿論これは社会の中での比較の問題ですが、ある程度豊かになると、更にお金儲けについて考え、遂には、金に支配されていることを忘れてそれに仕えようとする“拝金主義”という状態になります。お金に限らず、仮に技術を誇ったにしても同じです。“そんな技巧などない方がよほど健康だ”といえるようなものは一杯あります。これも主は否定されます。罪にまみれざるを得ない金銭・富を“用いなさい”というのです。

【比較】私たちはまた、批評にも支配されやすいものです。お金があると思えばそれを隠し、ないと思えばあるように振る舞い、何とも不自由な世界に入ってしまう。罪の性格をもつこの富を、主はユダに委ねられました。全てをご存知の主がそうされたのです。

【神に対する忠実】キーワードはやはり、神様への忠実だということです。ウェスリは“多くを儲け、多くを捧げる”ことを説教しています。

週報

2011年 10月 9日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042